

## 近畿地区医学図書館協議会 第1回シンポジウム

### —参加報告記—

近畿地区医学図書館協議会第1回シンポジウムが、平成7年12月8日(金)に大阪大学付属図書館生命科学分館AVホールにて開催された。これは近畿地区の医学図書館協議会の活性化を検討する会の企画で行われたもので、参加者の内、37名中14名が病院図書室の担当者であったことからその関心の高さが伺われた。

#### <プログラム>

評議員館館長挨拶 大阪医科大学図書館館長  
清金公裕  
基調講演「21世紀における医学図書館」  
日本医学図書館協会理事  
穴道 勉

#### パネリストによる報告

##### [パネリスト]

小森 優 (京都大学医学部付属病院)  
山本隆一 (大阪医科大学中央検査部)  
室谷則茂 (神戸大学付属図書館医学部分館)  
安藤孝幸 (大阪歯科大学図書館)  
首藤佳子 (近畿病院図書室協議会)

##### [座長]

茂幾周治 (大阪医科大学図書館)

#### ディスカッション

#### まとめ

シンポジウムでは「21世紀における医学図書館」というテーマのもと、5名のパネリストより報告を受けた。

当協議会からは、星ヶ丘厚生年金病院図書室司書の首藤佳子氏より「デジタル情報社会

における病院図書室の戦略」と題して、情報環境のめまぐるしい変化とアメリカでの‘Patient Education and Information’の流れの中で、今後、病院図書室がどのように対応すべきかについて報告を行った。〔首藤氏の報告の詳細は本号で紹介〕

その他、「学内LANによる医学文献検索(小森優氏)」は、最も重要なこととして、システム利用が限定された場所からより開放された場所へと広がってきていることを、京都大学、特に大学病院の利用状況を例に報告。また、「広域ネットワークと図書館(山本隆一氏)」はインターネットを代表とする広域ネットワークの時代に図書館に望むものは何であるのかについて報告された。また室谷則茂氏と安藤孝幸氏は、それぞれの図書館を通して21世紀における医学図書館のあり方について考察された。

現在、医療環境や図書館、情報関連分野の環境が大きく変化している中で、医学図書館をはじめ私たち病院図書室も新しい対応がせまられていることは事実である。これらの変化の中で、求められる医学図書館・病院図書室像を模索していくことは、私たち図書館員の課題であるといえるだろう。

今回の近畿地区医学図書館協議会第1回シンポジウムは、これらの環境の変化をあらゆる角度から考察し意見を聞く良き機会となったのではないだろうか。また、大学図書館と病院図書室とそれぞれの立場から意見を聞くことができたことは、今後の発展に大きな意義があったように思う。

次回の開催は、第1回シンポジウムのアンケート結果を参考にして、実行委員会形式で行われる予定である。協議会からも実行委員を出して企画を準備していくことになっている。

今後も協議会としても積極的に参加をしてその発展に貢献していくことが大切であると痛感している。

(前田元也 記)